ISSB開示基準の審議状況について（事務局資料①）

2022年10月

経済産業省 経済産業政策局
企業会計室

１．第９回研究会以降の関連動向

２．ISSB公開草案S1及びS2の審議の状況

３．ISSB関連の今後のスケジュール

第9回研究会（6/15）以降の関連動向（1/3）

- 第9回研究会以降の非財務情報の開示に関連する主要な動向は以下の通り。

日付	トピック
6/15	英FRC、戦略報告書に関するガイダンスの改訂版を公表。 https://www.frc.org.uk/accountants/accounting-and-reporting-policy/clear-and-concise-and-wider-corporate-reporting/narrative-reporting/guidance-on-the-strategic-report
6/20	内閣官房、非財務情報可視化研究会（第6回）を開催。人的資本可視化指針（案）について討議。 https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii_sihonsyugi/wgkaisai/index.html
6/24	IFRS財団、ISSB理事として新たに2名（Jeffrey Hales氏、Michael Jantzi氏）を指名。 https://www.ifrs.org/news-and-events/news/2022/06/ifrs-foundation-trustees-appoint-jeffrey-hales-and-michael-jantzi-to-the-issb-making-the-board-quorate/
6/28	TNFD、自然関連リスク及び機会の管理・開示のためのフレームワークのベータ版バージョン0.2を発表。 https://www.unepfi.org/themes/ecosystems/tnfd-releases-second-iteration-beta-framework-including-initial-guidance-on-metrics/
6/28	GRI、「農業・水産養殖業・漁業」に関するセクター別基準を公表。 https://www.globalreporting.org/news/news-center/advancing-sustainable-production-on-land-and-sea/
5/30−7/11	IFRS財団、SSAFのメンバー募集を実施。 https://www.ifrs.org/news-and-events/news/2022/05/sustainability-standards-advisory-forum-call-for-candidates/
7/12	金融庁、「ESG評価・データ提供機関に係る行動機関（案）」を取りまとめ、パブリックコメントを開始（締切9月5日）。 https://www.fsa.go.jp/news/r4/singi/20220712/20220712-2.html
7/13	金融庁、「サステナブルファイナンス有識者会議第二次報告書」を公表。 https://www.fsa.go.jp/news/r4/singi/20220713/20220713.html
7/14	IFRS財団、ISSB理事として新たに2名（Tae-Young Paik氏、Elizabeth Seeger氏）を指名。 https://www.ifrs.org/news-and-events/news/2022/07/tae-young-paik-and-elizabeth-seeger-appointed-as-inaugural-members-of-the-issb/

第9回研究会（6/15）以降の関連動向（2/3）

日付	トピック
7/18	IFRS財団、「Jurisdictional Working Group」をオンラインにて開催。 https://www.ifrs.org/news-and-events/calendar/2022/july/jurisdictional-working-group/
7/20-21	IFRS財団、初回のISSB理事会をフランクフルトにて開催。 https://www.ifrs.org/news-and-events/calendar/2022/july/international-sustainability-standards-board/
8/1	IFRS財団、VRFとの統合を完了。 https://www.ifrs.org/news-and-events/news/2022/08/ifrs-foundation-completes-consolidation-with-value-reporting-foundation/
8/3	英FRC、デジタルセキュリティリスクの開示に関する報告書を公表。 https://www.frc.org.uk/news/august-2022/frc-publishes-recommendations-to-improve-digital-s
8/5	ISSB、サステナビリティ開示基準案（S1・S2）に対するコメントの受付を終了し、1300件以上のコメントを受領したことを発表。 https://www.ifrs.org/news-and-events/news/2022/08/issb-receives-global-response-on-proposed-sustainability-disclosure-standards/
8/10	EFRAG、欧州サステナビリティ報告基準の一次ドラフトに対するコメントの受付を終了し、750件以上のコメントを受領したことを発表。コメントを検討の上、一次ドラフトが11月に欧州委員会へ提出される予定。 https://www.efrag.org/News/Public-371/Closing-of-the-EFRAG-public-consultation-on-the-Draft-ESRS-EDs-
8/23	IFRS財団、ISSB理事として新たに3名（小森博司氏、Jenny Bofinger-Schuster氏、Veronika Pountcheva氏）を指名。 https://www.ifrs.org/news-and-events/news/2022/08/three-members-appointed-from-europe-and-japan-to-the-issb/
8/30	内閣官房、「人的資本可視化指針」を公表。 https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii_sihonsyugi/wgkaisai/index.html
8/30	WBCSD、PRI、IFACが作成した、ISSB、SEC、EFRAG等の主要関係者が緊密に連携するよう求める共同声明を65の企業等が支持。 https://www.wbcsd.org/Overview/News-Insights/General/News/Companies-investors-and-professional-accountants-add-their-voices-to-the-call-for-global-alignment-between-sustainability-reporting-standard-setters-and-frameworks

第9回研究会（6/15）以降の関連動向（3/3）

日付	トピック
8/31	IFRS財団、ISSB副議長としてJingdong Hua氏を指名。 https://www.ifrs.org/news-and-events/news/2022/08/former-world-bank-vice-president-jingdong-hua-appointed-as-issb-vice-chair/
9/6	IFRS財団、サステナビリティ諮問委員会（Sustainability Consultative Committee）に7つの組織と代表を追加指名。 https://www.ifrs.org/news-and-events/news/2022/09/ifrs-foundation-announces-appointments-to-sustainability-consultative-commitee/
9/13	WBCSD、欧州委員会に対する欧州サステナビリティ報告基準（ESRS）に関するレターを公開。グローバルスタンダードに整合させること、ダブルマテリアリティのコンセプトを改善し、より明確なガイダンスを提供すること、ESRSを段階的に適用すること強く奨励。 https://www.wbcsd.org/Overview/News-Insights/General/Letter-to-the-EU-Commission-on-European-Sustainability-Reporting-Standards
9/13	アフリカの閣僚ら、ISSBの活動への支持を表明し、アフリカでのISSB基準の早期適用に向けた助言とキャパシティビルディングをISSBへ奨励。 https://www.ifrs.org/news-and-events/news/2022/09/african-ministers-support-the-issbs-work-and-call-for-early-adoption-of-its-standards-by-african-jurisdictions-companies/
9/15	IOSCO、IAASB及びIESBAによるサステナビリティ関連報告の保証に関する取組を歓迎。 https://www.iosco.org/library/pubdocs/pdf/IOSCOPD713.pdf
9/20-23	IFRS財団、ISSB理事会をフランクフルトにて開催。 https://www.ifrs.org/news-and-events/calendar/2022/september/international-sustainability-standards-board/
10/18-21	IFRS財団、ISSB理事会をモントリオールにて開催。 https://www.ifrs.org/news-and-events/calendar/2022/october/international-sustainability-standards-board/

IFRS財団・ISSBのメンバー構成

- ８月23日、ISSBメンバー全14名の任命完了。日本からは、小森博司氏がISSB理事に任命された。

ISSBメンバー

議長
エマニュエル・ファベール氏
（元ダノンCEO）

副議長
ジンドン・ファ氏
（元世銀副総裁
兼Treasurer）

副議長
スー・ロイド氏
（元IASB副議長）

	氏名	国	経歴
議長	Emmanuel Faber	仏	ダノンCEO
副議長	Jindong Hua	中	世界銀行副総裁
	Sue Lloyd	NZ	IASB副議長
理事	Richard Barker	英	オックスフォード大学・ビジネススクール副学長兼教授
	Jenny Bofinger-Schuster	独	シーメンス（サステナビリティ部門）Senior Vice President
	Verity Chegar	米	SASB共同副議長
	Jeffrey Hales	米	テキサス大学教授（会計学）、SASB議長
	Michael Jantzi	加	VRF理事、サステナリティクス創業者・CEO
	小森　博司	日	GPIFシニアディレクター兼スチュワードシップ・ESG部門統括
	Bing Leng	中	中国財務省会計規制部門ディレクター
	Ndidi Nnolo-Edozien	ナイジェリア	Dangote Industries Limited（アフリカ最大の製造業企業）サステナビリティ最高責任者
	Tae-Young Paik	韓	成均館大学教授（会計学）
	Veronika Pountcheva	ブルガリア	METRO（独有数の卸売・小売企業、CSR部門）Senior Vice President
	Elizabeth Seeger	米	SASB理事、KKRマネージング・ディレクター

（資料）IFRS財団ウェブサイトを基に作成。

ISSBの将来のアジェンダ（22年7月ISSB会議より）

- ISSBが今後2年間に取り組む課題の優先順位に関するコンサルテーションは、**来年前半に行われる可能性が高い**（当初、年内に開始することが予定されていたが、来年前半に延期の見込み）。
- 22年7月のISSB会議において、アジェンダの優先順位についての意見募集を準備するにあたり、検討すべき項目の予備的リストが提示された（スタッフ・ペーパー）。

ISSB会議
スタッフ・ペーパー
（2022年7月）

(a) 大まかに定義されたトピック（broadly defined topics） →次頁参照

(b) 産業別要求事項及びSASBプロジェクトポートフォリオ

✓ 基準設定プロジェクト（旧SASBプロジェクト）
- Alternative products in the Food & Beverage industry
- Content governance in the Internet Media & Services industry
- Plastics risks and opportunities in the Chemicals industry
- Human capital: diversity, equity and inclusion
- Greenhouse gas emissions in the Marine Transportation industry
- Renewable energy in the Electric Utilities & Power Generators industry

✓ リサーチ・プロジェクト（旧SASBプロジェクト）
- 人的資本

✓ アーリーステージ・オポチュニティ（旧SASB）
※ 将来的にプロジェクト提案の可能性を検討する必要のあるトピック

(c) IASBと連携して取り組むべき潜在的なプロジェクト

- 概念フレームワーク
- 経営者による説明
- その他（気候関連リスク、無形資産、汚染物質価格メカニズム）

（資料）ISSB meeting（7月20日-21日）資料 “AP1A: Items to be considered in development of Request for Information”）を基に作成。

ISSBにて基準化が行われる可能性のあるテーマ（22年7月会議より）（1/2）

- 22年7月のISSB会議において、「大まかに定義されたトピック（broadly defined topics）」として、今後、基準化に向けた議論が行われる可能性のあるテーマが提示されている。

	市場ニーズへ対応するための課題
生物多様性、生態系、自然損失	• 「自然」「天然資源」「生物多様性」の定義、整理、分類の難しさ • 他のサステナビリティ関連のリスク及び機会との重複（GHG排出量、水管理など） • 市場がタイムリーな解決策を求めていること • 場所やビジネスモデルによって生物多様性のリスク及び機会が異なること • どの自然又は生物多様性関連のサブトピックが優先されるべきかについて明確なコンセンサスがないこと
循環型経済、材料調達、バリューチェーン	• 再生可能・再生不能資源の両方について、循環型戦略を分類するための一般に認められた枠組みがないこと • 企業のバリューチェーン全体を通じてリスクと影響を測定する際に内在する技術的課題 • 企業のビジネスモデル、経済活動、資源利用に応じたリスク及び機会の多様性 • その他のサステナビリティ課題と大きく重なる可能性があること
気候変動	• 物理的気候リスクへのエクスポージャー及びその管理 • スコープ3GHG排出量 • カーボンオフセット、クレジット、除去、排出回避 • 金融機関のポートフォリオが関連する目標やシナリオとどの程度整合しているかを示す評価基準 • 移行計画とパスウェイ • 炭素価格と、戦略・財務計画への統合 • 気候変動がもたらす社会的影響に関連する財務的影響 • 「公正な移行」に関連するリスク及び機会
サイバーセキュリティ、データセキュリティ、顧客のプライバシー	• サイバーセキュリティリスクに関する将来を見越した分析は定量化及び比較が困難であること • 法律や枠組みが多様であるため、規制リスクエクスポージャーを法域間で比較することは困難であること • 企業が、サイバーセキュリティの実務や過去の事故に関する情報を開示することをためらう可能性があること

（資料）ISSB meeting（7月20日-21日）資料 “AP1A: Items to be considered in development of Request for Information”）を基に作成。

ISSBにて基準化が行われる可能性のあるテーマ（22年7月会議より）（2/2）

	市場ニーズへ対応するための課題
経済的不平等	• 不平等と企業価値の関連性に関する市場の理解が比較的浅いこと • 特定の社会的情報の測定・比較に固有の課題があること • 人権や人的資本を含む、その他のテーマ分野との重複が大きいこと
人的資本	• 人的資本管理の多面的な性質と、ビジネスモデル、経済活動、法域によってリスクと機会の現れ方が異なること • 一部の法域では、労働力データの収集が法的に禁じられていること • 一部の情報の開示に関連する競争上のセンシティビティ • 人的資本管理の重要な側面は、本質的に測定・管理が難しいこと（職場の文化など） • 代替労働力の利用や自動化といったその他の側面は急速に発展しており、あまり確立されていないこと • 人的資本管理のある側面は、深刻な社会的影響をもたらす可能性があることから監視の目が厳しくなっているが、そのような影響を管理するために個々の企業がどのような役割を果たすかは、あまり明確でないこと
人権	• 人権デュー・ディリジェンスは測定及び比較が困難であり、一貫性に欠け、不十分又は不完全な、又は「ソーシャルウォッシュ」の影響を受けやすい定性的な開示に繋がる可能性があること • 他のサステナビリティ課題との重複（低炭素経済への「公正な移行」など） • 人権関連リスクが産業別に幅広く現れること（プライバシー侵害（テクノロジー）、地域社会との関係（資源）、児童労働（アパレル）など）が、基準設定に複雑さをもたらす可能性があること • バリューチェーン全体を通じてリスクと影響を考慮することに、技術的課題が内在すること
水資源及び海洋資源	• 水関連のリスク及び機会のサイト固有性 • 水・海洋資源に関連する影響や依存度を評価する際の、企業の広範なバリューチェーンの重要性 • 水・海洋関連課題の多面的かつ相互関連的な性質 • 消費的利用（灌漑など）から非消費的利用（水力発電）や汚染など、様々なビジネスモデルや活動に内在する水・海洋資源との様々な関係

（資料）ISSB meeting（7月20日-21日）資料 “AP1A: Items to be considered in development of Request for Information”）を基に作成。

国・地域の基準との整合性確保に向けたISSBの取組

- 複数の国や地域でサステナビリティ開示に関する独自の取組みが進められていることを踏まえ、ISSBの取組とそれらの取組の整合性を高めていくため、ISSBに対話の場が設けられている。
- EUは、11月にEFRAG基準案策定し、欧州委員会に提出予定。（2023年６月末までに基準策定予定）

Jurisdictional Working Group

【背景】

- ISSB公開草案と各国・地域の取組みの整合性について議論を行うことを目的に、2022年4月に設立。
- 各国・地域の企業による報告の効率化にグローバル・ベースラインがどのように貢献できるか、また、各国・地域がそれぞれのニーズに応じてどのようにグローバル・ベースラインを活かすことができるか明確にするため、各取組みの整合性について議論する。
- 2022年5月、7月及び9月に会議を開催。

【メンバー】

中国	財政部
EU	欧州委員会、EFRAG
日本	金融庁、サステナビリティ基準委員会 (SSBJ)
英国	金融行為規制機構 (FCA)
米国	証券取引委員会 (SEC)
オブザーバー	証券監督者国際機構 (IOSCO)

Sustainability Standard Advisory Forum

【背景】

- 各国・地域の基準と相互運用可能な、サステナビリティ開示基準の包括的なグローバル・ベースラインを開発するというISSBの目標達成に向けて、メンバーが建設的に貢献できる諮問の場を提供することを目的として設立予定（今後、数週間以内）。
- 具体的には以下を行う。
  - ✓ 財団とISSBをサポートし、IFRSサステナビリティ開示基準の開発に向けて貢献する。
  - ✓ グローバルコミュニティとの共同エンゲージメントを公式化し、合理化する。
  - ✓ 高い専門能力を有し、各地域の深い知識を有する代表者とともに、基準設定について技術的議論を進める。

【メンバー】

- 2022年7月11日までメンバーの募集が行われ、16の国・地域が参加予定。

（資料）ISSBウェブサイトを基に作成。

1．第９回研究会以降の関連動向

2．ISSB公開草案S1及びS2の審議の状況

3．ISSB関連の今後のスケジュール

再審議が必要とされた公開草案における論点（22年9月ISSB会議より）

- 9月20日～23日にISSB会議（フランクフルト）が行われ、公開草案（S1・S2）へのフィードバックを踏まえた議論が行われた。
- 同会議において、再審議（redeliberations）が必要な課題がスタッフ・ペーパーとして提示され、暫定的に決定された。

S1・S2の両方に関する課題

1. 拡張性
2. サステナビリティ関連及び気候関連のリスク及び機会が、企業の財務業績、財政状態及びキャッシュフローに与える現在及び予想される影響

S1に関する課題

1. 企業価値
2. 要求される報告の範囲
3. 「重大な」サステナビリティ関連のリスク及び機会
4. 重大なサステナビリティ関連のリスク及び機会の特定と開示（他の基準設定主体の資料の利用を含む）
5. マテリアリティ評価の適用
6. つながりのある情報
7. 報告の頻度

S2に関する課題

1. 戦略（移行計画を含む）と意思決定
2. 気候レジリエンス
3. GHG排出量
4. 産業別要求事項（ファイナンス及びファシリテーションに係る排出を含む）

（資料） ISSB会議（2022年9月）資料を基に作成。

論点①：「重大な」サステナビリティ関連のリスク及び機会（22年9月ISSB会議より）

- 公開草案へのフィードバックを踏まえ、「“重大な”サステナビリティ関連のリスク及び機会」が、再審議（redeliberations）が必要な課題の一つとして暫定的に決定された。

再審議が必要な論点（スタッフ・ペーパー）

- 多くの回答者が、「サステナビリティ関連のリスク及び機会」の前に「重大な (significant)」という言葉が使われていること、及び、重要性 (materiality) との関係について懸念を示した。
- ISSBは、「重大な (significant)」という用語が必要か、別の用語に置き換えるべきか、何が「重大な (significant)」であるか判断する方法についてガイダンスが必要か、用語の意味と重要性 (materiality) との関係についてより明確にする必要があるか、検討する必要がある。

ISSB会議（22年9月）の議論

【ボードメンバーからの意見】

- 両文言の相互関連性や重要性を踏まえた開示が行われるためのグローバルな基準をどのように開発するかを検討し続けることがが重要である。

【暫定決定した内容】

- **本件を再審議のテーマとする。**

【今後の課題】

- 下記の論点について、議論する必要がある。
  - ✓ 「重大な（Significant）」という言葉の定義や他の言葉に変換ができないか
  - ✓ 重要性（Materiality）との関係について明確にすること

（資料）ISSB会議（2022年9月）資料を基に作成。

論点②：報告の頻度（22年9月ISSB会議より）

- 公開草案へのフィードバックを踏まえ、「報告の頻度」が再審議（redeliberations）が必要な課題の一つとして暫定的に決定された。

再審議が必要な論点（スタッフ・ペーパー）

- 多くの回答者が、潜在的な報告負担、サステナビリティ報告のためのプロセス構築の必要性、既存の法域の要求事項との非整合性から、少なくとも基準の初回適用時においては、財務諸表と同時にサステナビリティ関連財務開示を報告することには課題があるとした。
- ISSBは、本要求事項を適用について、作成者の救済措置を設けるかどうか検討する必要がある。
- 報告のタイミングについての変更は、作成者がサステナビリティ関連財務報告を一般目的財務報告の一部として提供できるかどうかに影響する可能性がある。このため、情報の場所への影響は、同じ資料の中で検討されることとなる。

ISSB会議（22年9月）の議論

【暫定決定した内容】

- **本件を再審議のテーマとする。**

【今後の課題】

- 救済措置を認める規定を設けるべきか、検討する必要がある。

（資料） ISSB会議（2022年9月）資料を基に作成。

論点③：GHG排出量（22年9月ISSB会議より）

- 公開草案へのフィードバックを踏まえ、「GHG排出量」が再審議（redeliberations）が必要な課題の一つとして暫定的に決定された。

再審議が必要な論点（スタッフ・ペーパー）

- スコープ1・2排出量（絶対総量）を開示するという提案については、ほぼ全ての回答者が大筋で賛同。
- 他方、一部の回答者は、基礎となる算定・測定方法に関連する要求事項に賛同せず。ほとんどの回答者は、GHGプロトコル・コーポレート基準を用いて排出量を開示することに賛同しているが、一部回答者からは、ISO14064シリーズや各国の制度等、他の測定方法を代替手段として認めるべきとの意見が示された。
- その他、数名の回答者は、投資先のGHG排出量の扱い方や、GHGプロトコル・コーポレート基準のような、第三者の方法論の使用の義務付けが適切かどうかといった点について懸念を示した。また、GHG排出量（原単位）の指標は具体性に欠けるとの懸念も示された。
- ほとんどの回答者は、スコープ3排出量（絶対総量）に関する提案に賛同しているが、データの入手可能性、見積りの使用、計算方法の不確実性等、様々な懸念も示されている。
- スタッフは、以下の分析と提言をISSBへ提出する予定。
  - ✓ GHG排出量開示要求に関するフィードバックの概要
  - ✓ 測定方法に関する再審議を開始するための分析・提言
  - ✓ スコープ3排出量の開示要求事項に関する再審議を開始するための分析・提言
- さらに、温室効果ガスの集約・分類や、排出原単位のアプローチ等についてもスタッフによる提言を示す予定。

ISSB会議（22年9月）の議論

【ボードメンバーからの意見】
- 金融機関はスコープ3の開示があまり進んでいないため、GHG排出量の開示改善のために様々な見解が示されている。
- 業界横断的なGHG排出量の議論が必要。金融機関については、スコープ3のカテゴリ15（投資）が大半を占めることも考慮する必要がある。

【暫定決定した内容】
- **本件を再審議のテーマとする**。

【今後の課題】
- スタッフペーパーで提示された課題について議論が必要。特にスコープ3については、継続して議論が必要。

（資料） ISSB会議（2022年9月）資料を基に作成。

論点④：産業別要求事項（22年9月ISSB会議より）

- 公開草案へのフィードバックを踏まえ、「産業別要求事項」が再審議（redeliberations）が必要な課題の一つとして暫定的に決定された。

再審議が必要な論点（スタッフ・ペーパー）

- パブコメにおいて、産業別要求事項については、賛否含めて様々な意見があったことから、S2基準付録Bに含まれる産業別要求事項に関するペーパーを作成する際には、特段の前提条件を設けない予定。
- スタッフは、まず最初に、産業別要求事項の役割（role）について、分析と提言を行う予定。産業別要求事項を最終化するためには、更なるペーパーが必要となることが予想される。

※そのほか、ファイナンスに係る排出及びファシリテーションに係る排出に関する論点が提示された。

ISSB会議（22年9月）の議論

【暫定決定した内容】

- **本件を再審議のテーマとする**。

※ファイナンスに係る排出及びファシリテーションに係る排出については、提案された開示トピックの目的、説明及び名称、排出量に係る基礎情報、開示される産業の内訳、複雑性、柔軟性の向上などについて、今後も議論を進めることが必要との課題が示された。

（資料）ISSB会議（2022年9月）資料を基に作成。

１．第９回研究会以降の関連動向

２．ISSB公開草案S1及びS2の審議の状況

３．ISSB関連の今後のスケジュール

ISSB関連の今後のスケジュール

ISSB関連の予定

2022年	7月20日-21日	ISSB会議
	9月20日-23日	ISSB会議
	10月18日-21日	ISSB会議
	11月14日-18日	ISSB会議
	12月12日-16日	ISSB会議
2023年	as early as possible	S1基準、S2基準の発行
	上半期	パブリックコンサルテーション （アジェンダの優先順位）